

1. 教育目標

「温かな人間関係の中で、生き生きと自主的に活動する生徒の育成」

2. 研究主題

「自分の考えを持ち、広め、深め合える授業づくり」

～必要な情報を読み取り、目的や条件に応じて「書く力」を高める～

3. 主題設定の理由

本校は一昨年度まで「集団づくり」の推進と「自尊感情の育成」に力を入れ、研究に取り組んできた。しかしながら今日的な社会の要望を鑑みると、学力向上を視野に入れた学校研究の必要性が生まれてきた。そこで、昨年度は、本校生徒の学習状況を見直し、「書くこと」を苦手としている生徒が多いという分析結果から、まず「書く力」を高めることを重視した研究を進めた。書くことが学力向上に全てつながるとは思ってはいなかったが、自分の考えを自分の言葉で書く（表現する）ことはとても大切なことである。実際、授業で書く機会を増やしたことで書くことに対する抵抗感を感じる生徒が減少し、テストにおける無回答率も低下し、研究の成果が得られた。しかし、書く視点が今ひとつ曖昧だったため、教師の問いかけの工夫やコーディネート力が必要であるという課題も出てきた。

今年度は、まず、授業づくりの基盤として自分の考えをしっかりと持ち、友達に広げる（伝える）こと、深め合うことを大切に授業を展開していきたい。そして昨年度の成果を生かし、必要な情報を読み取ることや見通しを持ちながら「書く力」を高める授業を継続していきたい。このような理由で上記のような研究主題を設定した。

4. 目指す生徒像と育てたい力

本校が目指す生徒像

「自主」・・・自分の力で判断し、自ら進んで行動できる人
「自立」・・・自分の行動や言動に、責任を持つことができる人
「奉仕」・・・思いやりの心を持ち、人と地域に貢献できる人

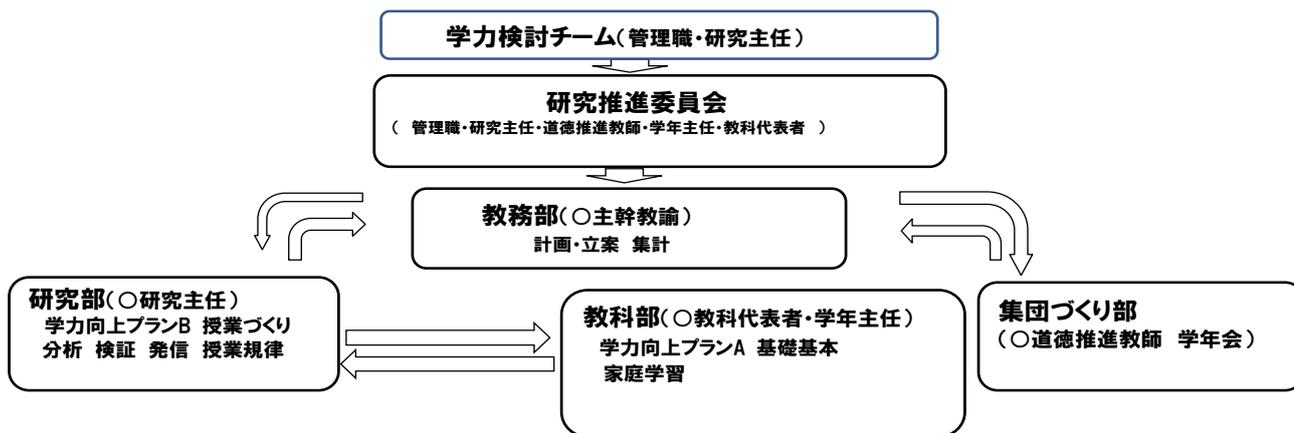
これを基に、本校の研究主題に迫るため、育てたい力を以下のように設定した。

- ・自分の考えをしっかりと持ち、広げ、深め合う態度
- ・必要な情報を意欲的に読み取る態度や姿勢
- ・目的や条件に応じて自分の言葉で書く力

5. 研究仮説

生徒たちがよりよい人生を送るための能力として必要なものは、何を知り（知識）、何ができ（技能）、どのようにその力を使うか（思考力・判断力・表現力など）である。人に流させることなくしっかりとした考えを持つためには、授業の中で資料や図表などの中から必要な情報を読み取ることや書くことを意識した授業を重ねることで、自分の考えが広がり、深め合うことができる。このような積み重ねが、生徒の学力保証や学力向上につながっていくであろうと考えた。

6. 組織図



7. 研究の柱と内容

教務部

- (1) 学力調査・質問紙調査の実施・集計
- (2) 生徒用『学び』振り返りシートの作成・実施・集計、教職員アンケートの実施・集計

研究部

- (1) 授業規律の共通理解と徹底 → 「松陽スタンダード」の確立

活かす	既習内容（前時）の学習内容の確認 → 導入
つかむ	「本時のめあて」の理解 → 本時のまとめとの整合性 見通しを持つ
考える・広める・深め合う	個人 ペア グループなどの授業形態 考えの変容が分かるワークシート
まとめる	最後の5分間の時間確保 振り返りとまとめの違い <u>まとめ方の工夫</u>

- (2) 課題設定（本時のめあて）の明確化とまとめの整合性、まとめ方の工夫 → 板書の統一・工夫
- (3) 授業研究の充実

指導案検討、提案授業、模擬授業などで校内研修会の活性化を目指す。また、1学期の計画訪問では中堅・ベテラン教員の研究授業を実施したり、授業交流週間を設けたりして、授業改善の一助とする。

視点

- ① 本時のめあてが明確であり、生徒に見通しを持たせて授業を進めている。
- ② 自分の考えを伝え、広め、深め合う場面が設定されている。
- ③ 本時のまとめや振り返りの時間がしっかり確保され、自分の言葉でまとめている。

教科部

- (1) 定期的な教科部会の開催

定期的に教科部会を開催し、学力の向上を図るために教科毎に課題の洗い出しと検討を行う。

- ・「学びの羅針盤」の作成

授業でつけたい力や年間の学習の見通しを持たせるために、各教科で作成し、年度当初（単元毎）に生徒に配布し、説明する。

- ・定期テストの前に教科部会で課題の共有と出題問題の検討を行い、出題問題を生徒に予告することで、学習意欲を高める。→リーダー会からの発信
- ・定期テストの教科部会でテスト結果を分析・検証し、スモールステップでの短期達成目標を設定する。
- ・基礎学力調査等の結果を分析することで、指導強化単元を位置づけ、計画的な指導を進める。
- ・学期末の『学び』振り返りシートの結果を分析し、教科指導の重点化を図り、授業改善に生かす。

- (2) 基礎基本の定着を目指した取組

(例) 長期休暇中の補充教室 英語科の語順ドリル など

- (3) 家庭学習確立への取組

→ (1・2年) アップノートと毎日の英語学習 週末課題

(小中連携) 家庭学習強化週間

家庭学習の日

集団づくり部

(1) 道徳教育の充実と集団づくり

- ア 道徳年間指導計画と道徳教育全体計画（別葉）の作成と資料研究
平成31年度「特別の教科 道徳」全面実施に向けて、年間指導計画に沿った授業の実践と道徳的観点と結びつけた教科の授業を実施する。
- イ 研究授業の実施
2学期の計画訪問では、各学年1学級ずつ研究授業に取り組む。そのために夏休み中に資料分析を行ったり、外部講師をお招きしたりして、授業力の向上に努める。リレー授業で計画訪問に向かう。
- ウ 評価方法の研究
授業の導入時と終末時の生徒の考え方や感じ方の変容がわかるワークシートの作成に努める。
また、いろいろな人の考え方や感じ方が、自分の考えから広げられるように掲示方法の工夫をする。
- エ 授業交流の活性化
年2回の授業交流週間では、積極的に授業公開することで、互いの授業力を高める。
- オ 年間指導計画及び授業記録の活用
職員室に年間指導計画を貼り、チェックすることで、未履修項目のないように心がける。
- カ 教師向け道徳通信の配布
道徳推進教師が研修で学んできたことを校内研修会や道徳通信を通して発信していく。

(2) 読書活動の推進

- ア 朝読書の時間
朝読書は、学年（発達段階）に応じた取組を考えていく。
毎週火曜日は、放送による読み聞かせをしっかりと聴く。
朝読書は、担任も着席して生徒と共に静かに読書をするように働きかける。
- イ 図書館利用の活性化
教科や特活、総合的な学習の時間、朝自習の時間で図書館を計画的に利用する。

8. 年間計画（予定）

- 4月 校内研修会「学級開き」「今年度の研究方針」
松陽スタンダードの提案（授業規律） 教科部会（確認テストの分析）
P T A総会後の授業参観（教科・道徳・学活・総合）
- 5月 教科部会（県・全国学力調査の分析・中間テスト出題問題の検討）
- 6月 教科部会（中間テスト結果分析・スモールステップの決定） 部活動参観・見学
授業交流週間 教科部会（期末テスト出題問題の検討） 計画訪問
- 7月 教科部会（期末テスト結果分析・スモールステップの決定・1学期の振り返り）
- 8月 校内研修会「道徳」・・・資料分析・学習会（講師の先生をお招きして）
「部活動」「QUアンケートの結果分析・生徒対応」「学力調査の分析からの対策」
- 9月 教科部会（確認テストの分析）
- 10月 教科部会（中間テスト出題問題の検討） 計画訪問
- 11月 教科部会（中間テスト結果分析・スモールステップの決定・期末テスト出題問題の検討）
- 12月 教科部会（期末テスト結果分析・スモールステップの決定・2学期の振り返り）
校内研修会「授業力」
- 1月 学校研究物の作成 教科部会（確認テストの分析）
- 2月 教科部会（期末テスト出題問題の検討） 授業交流週間
校内研修会「今年度の研究の成果と課題、次年度の研究方針（案）」
- 3月 教科部会（期末テスト結果分析 次年度に向けて）